

75歳以上を差別する

後期高齢者医療制度



一生懸命働いてきた結果がこれか！

高齢者から自民・公明政治に批判沸騰！

75歳以上の高齢者を今の医療保険から切り離し、年金から保険料を取り続ける世界に例のないひどい制度です。

この法律は06年に自民党

・公明党が強行したのですが、全国で地方議会の3割(530)が中止を求め意見書を提出するなど怒りが沸騰しています。

衆院予算委員会で、共産党の小池晃議員は「家族一緒に暮らしていた母屋から、75歳を過ぎた人だけ離れに移すようなやり方だ」「戦

争を体験され、戦後は日本の復興のため必死に働いてこられた皆さんを、高齢期になったとして国から捨てるような制度だ」と中止・撤回を求めました。

川西市内老人クラブからも中止の声

市内の老人クラブに共産党議員団が呼びかけた「中止・撤回を求める」請願署名に「本当にひどい内容だ、こんな協力なら喜んで」と

市内10老人クラブから、450筆が届けられました。厚生経済常任委員会で、老人クラブから提出された請願が審査。請願に賛成したのは共産党だけ。

年寄りいじめの

医療差別は許せません

- 「後期高齢者」の診療報酬を包括払い(定額制)とし、保険医療に上限をつける
- 「終末期医療」に医療制限、病院追い出しをねらった特別診療報酬体系を持ち込む
- 今まで、高齢者・障害者には、必ず保険証を発行してきましたが、保険料を滞納すると保険証の取り上げ

「長寿を慶び、安心して暮らせる社会をつくる」のが政治の責任です。

廃止の請願に賛成は日本共産党のみ

市立川西病院は

住民の命・健康を守ることを第一に！

国の公立病院つぶしのプランにのってはない

赤字を引き起こした原因は国にもある

赤字病院は、民間移譲を含め3年で黒字化を目指した計画書を、「公立病院改革ガイドライン」に沿って作成しなさいと国は要求してきました。赤字を引き起こした原因は、国が「医療費抑制」名目で診療報酬を毎年のごとく引き下げてきたこと。閣議決定し「医師の総数を減らした」こと。医療費を引き上げて患者を病院から遠ざけたことによります。このことを改善せず、赤字になったから廃止・縮小しろは通りません。

市・町民のための病院として充実すべき

川西病院が赤字経営であることは確かです。それは公立病院の役割である、不採算(儲からない)部門の小児科、産科を抱えているからです。しかし今その部門の医師が不足をし、周辺自治体病院でも廃止、縮小が行われ住民が困っています。かつて川西病院も小児科、産科を縮小しました。病院の廃止・縮小ではなく、住民の命を守る立場で、川西病院を地域の二次医療センターとして充実させることに力を注ぐべきです。



議会報告

2008年春号

発行:2008年3月

日本共産党川西市会議員団

議員団控室 TEL.740-1111(内線4020) FAX.759-1811 E-mail:jcp-kawanisigi@helen.ocn.ne.jp